

留 学 生 通 信

日本とマレーシアの文化を楽しもう

Bridging the Cultural Gap between Japan and Malaysia



ノルファズリナ ハヤティ
モハマド ヤティム

Norfazrina Hayati Mohd Yatim

■マレーシアのユニセール大学卒業後、
2008年4月岡山理科大学工学部3年生に
編入、2010年機械工学士の学位（JABEE
コース）を取得

■主として行っている研究

・構造用接着剤硬化物の衝撃圧縮特性の評
価

■所属学会および主な活動

・日本実験力学会
・日本非破壊検査協会

■通学先

岡山理科大学大学院修士課程2年生
(〒700-0001 岡山市北区理大町1-1/
E-mail: norfazrinamy@gmail.com)

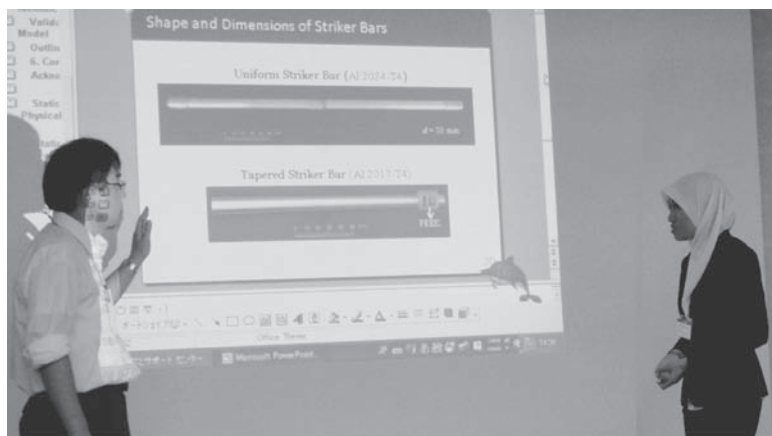


図1 国際会議での口頭発表の様子

1 自己紹介

私は、岡山理科大学大学院機械シ
テム工学専攻の修士課程2年生であ
る。マレーシアのユニセール大学を卒
業後、2008年4月に岡山理科大学
工学部に3年生として編入し、その
2年後に機械工学士の学位（JABEE
コース）を取得した。現在はIIUM
（International Islamic University
Malaysia）から奨学金を受け、構造
用接着剤硬化物の衝撃圧縮特性に関
する研究に携わっている。私は、留学前
「なぜ日本へ留学するの？」という質
問をよく受けた。せっかく留学するの
だから、日本語だけでなく、たとえば、
韓国語、中国語などの英語以外の言語
も話せるようになりたかったことが理
由の一つである。また、日本の技術が
優れていることや、マレーシアでは、
子供の頃から、アニメやコミック、ド
ラマ、ゲーム等の日本文化の影響を大
きく受けていることもあげられる。日
本にいたるうちに、勉学はもとより、さ
まざまな日本文化を経験しようと思っ
ている。

2 研究活動

日本滞在は今年で4年目になる。
私はマレーシアの大学を卒業したが、
研究活動は岡山理科大学で始まったの

で、マレーシアでの大学との研究シ
ステムの違いはよくわからない。一般
的には、日本での研究活動とマレーシ
アでのそれはあまり差がないと思うが、
大学院に入学する方法は少し違う。マ
レーシアでは、学部での成績が優秀な
CGPA（Cumulative Grade Point
Average）3.0以上の学生だけが入
学できる。大学院の英語試験は
TOEICではなく、英国のIELTS 6
級以上あるいは米国のTOEFL 550
点以上の得点が合格に必要なである。

研究テーマとして、私は接着継手の
動的強度よりも接着剤自体の動的特性
の評価に注目している。接着接合はボ
ルト、リベット接合などの機械的接合
に比べて高疲労強度、構造物の軽量化、
異材の容易な接合など多くの利点があ
り、航空機や自動車産業への利用が拡
大している。それに伴い、接着継手の
耐衝撃性に対する信頼性の精密な評価
がいっそう重要となってきている。そ
こで、衝撃試験法としてはホプキン
ソン棒法により異なる2種類（熱可塑
性と熱硬化性）の接着剤の硬化物に関
する動的圧縮特性を求め、ひずみ速度
の影響を調べている。さらに、その圧
縮応力-ひずみ特性に対するひずみ速
度依存性構成モデルの定式化も行っ
ている。大学院1年時には、必修科目
を受けながら研究するので、なかなか
忙しい毎日だった。今までいくつかの
国際（アメリカ、ポルトガル）・国内



図2 花火大会に行く前のゆかた姿



図3 マレーシアの踊りをする様子



図4 あかいわ祭りでのマレーシアのブース

学会で口頭発表をさせてもらい、非常に貴重な経験ができた(図1)。発表資料の準備や原稿の作成など大変時間がかかったが、とても自分自身の勉強になった。その経験は今後マレーシアの大学の博士課程に進学したときには必ず役に立つと思う。日本の大学院で研究生生活を送れたことは私にとって大変幸運だった。

3 花火大会や盆踊り

2008年の夏、私はマレーシアの友達と一緒に、本厚木で開催された打上げ数1万発の花火大会に参加した。浴衣を着た多くの日本人女性が、本厚木駅から花火大会の会場まで歩いていた。私も同じように、紫の花柄の白い浴衣を着てみた(図2)。私はムスリムのためヒジャブ(頭にかぶるもの)を着用する必要があるが、浴衣とよく合うと思っている。花火の開始とともに、みんなは拍手を送り、「きれい!」「すごい!」と叫び続けていた。花火は大きくて、とても綺麗だと思った。それ以来、江戸川、鎌倉、岡山などの花火大会へも行き、いい思い出をつくった。

花火大会だけでなく、盆踊りにも参加した。日本の友達から法被をもらい、他の日本人と一緒に踊った。実は、マレーシアでは毎年盆踊りが行われていて、JADプログラム(日本マレーシア高等教育大学連合プログラム)の学生たちや日本の先生方と盆踊りに参加したこともある。そのため、日本で盆踊りに参加できることがうれしくて、懐かしく感じた。盆踊りでは、たこ焼きや焼き芋などのさまざまな食べ物に出会った。宗教上の理由から、アルコールや動物由来のものは食べられないが、それを除き、いくつか挑戦したところ、非常に日本らしいと感じた。

4 倉敷国際ふれあい広場 2009

大学4年生のとき、日本の友人でよくマレーシアに行っているヒロミさんに「倉敷国際ふれあい広場に参加して、マレーシアの踊りを紹介してほしい」と依頼された。日本文化を楽しめるし、マレーシア文化も紹介できる絶好のチャンスだと思う反面、その申し出に驚いた。なぜならば、マレーシア文化に興味を持つ日本人がいることは全く予想外であり、また、自国の文化は、自国の者でしか理解できないと思っていたからである。だが、やはり人間は、いろんな文化を学ぶべきだと思い直し、この倉敷国際広場2009のために他のマレーシアの女子大学生7人と、約2週間マレーシアの踊りを練習し、参加した。本番では、みんなが楽しそうに踊っている様子を見て、すごく感動した(図3)。自国の文化や信仰を、日本の皆さんに伝えることができたことを、今でも神様に感謝している。

さらにこのイベントでは、日本の茶道や、もちつきを体験した。おじいさんたちはとても優しく、私たちが日本語を話せることをほめてくれた(それほど上手ではないのに)。茶道を体験したとき、日本女性の美しさや穏やかさを感じるとともに、抹茶は本当に美味しくて、私には新鮮な経験だった。この日は短い時間ではあったが、とても有意義な経験ができた。

5 あかいわ祭り

毎年10月ごろ赤磐市で開催される「あかいわ祭り」に参加した。私たちはマレーシアの食べ物を売ったり、参加者にマレー語を教えたり、マレーシアの伝統的な服装を紹介した。マレーシアでは人気の2種類の辛い食べ物を作った。一つはロティジャラとチキンカレーで、もう一つはカレーパフである(図4)。「ロティジャラ」は、日本語で「網状のパン」という意味である。そのロティジャラはチキンカレーと一緒に食べたほうがおいしく、また、辛さを少し抑えて日本人が食べられるように調理した。現場には他国のブースもあり、伝統的なおもちゃや服装を知り、いろんな食べ物を試食することができた。驚いたことに、日本の仮面ライダーのショーもあったので、本当に楽しかった。

6 おわりに

私は、他のさまざまな国の文化も学ぶことができたことを大変よかったと思い、この素晴らしい文化を持つ日本がどんどん好きになった。いつかマレーシアも、日本のように素晴らしい技術や文化、考え方を持つようになることを祈っている。修了まで後6カ月しかないが、またいろいろな文化を楽しみたいと思っている。